

歴教協第 61 回大会速報

全国から 843 名が参加。第 61 回北海道大会を成功させる

- 全体会は二部構成で行われる！

8 月 1 日から歴教協の第 61 回大会が北海道札幌の北海高校を中心に行われた。

「現在（いま）を見つめ平和な未来を」という大会テーマのもと、近世から近現代の北海道の歴史を通して日本という国を捉え直し、日本国憲法が未来をつないでいくことを確信することが試みられた。

現地の速報も『オー！マイわだつみくん』と命名され、これまでの紙版に変わり、电脑版での速報が出されるなど、新たな取り組みが行われた。

全体会は「北の大地から未来への発信」と題して二部構成で行われた。



部のステージの子どもたち

第 部ではオムニバス形式の構成舞台が演じられた。ムックリの演奏から始まった一部は、「沖上げ音頭」の歌や「アイヌ語教室」の様子、「100 年物語」と題する歴史を振り返る劇などが行われた。劇中ではアイヌ語の「イフンケ」も披露された。北海道の歴史などを多角的な側面から振り返る構成となっていた。第一部は多くの子どもたちの参加によって行われたが、練習時間もほとんど無い中、本番を迎えたそうである。多くの子どもたちのすばらしい演技には驚かされた。



イフンケを歌ってくださった熊谷カネさんと子どもたち

第 部は、君島東彦さんのコーディネートによるパネルディスカッションが行われた。ジャーナリストの影山あき子さん、旭川アイヌ語教室の太田満さん、トマト農家「ファーム弦」の谷哲也さんの 3 名をパネリストとして迎え、さまざまな背景にある方々でディスカッションを行い、「デモクラシーをつくる」というテーマで議論が試みられた。

当日の参加者からは、以下の感想が寄せられた。

「どの分野もわかりやすく、良かった。感動しました。一緒にサザエさんを歌ったのも面白かったです。沢山の子もたちが出演していて、微笑ましかったです。会場の女性の発言も、勇気あると思いました。」

「北の大地から未来への発信で小学生から大人でつくられたステージは本当にすばらしかったです。こどもたちがアイヌ語を学び、歌い、アイヌの歴史を学んでいる姿がステキだなと思いました。未来をつくるのは子どもたちですね！」

「二部のシンポジウムでは、『憲法はプラクティスだ。万が一改定されたとしても、これまでの歴史があるので、簡単に状況は変わらない。20年後の平和をつくるのが教育』という君島さんの言葉が印象に残った。」

「君島先生のまとめ、藤本監督のお話、映像は衝撃的でした。影山さんの『考えさせない事がすべて』との指摘に、自分の教育実践を問い直されました。太田さん、谷さんの話も、聞けて良かったです。」



アイヌ語で「サザエさん」を大合唱！

● 地域に学ぶつどい...365 名が参加

全体会終了後は「地域に学ぶつどい」が「かでの 2・7」を会場に行われた。11 のテーマ学習会に 365 名の方が参加された。アイヌ文化体験講座から、夕張から考える地域経済の問題まで、非常に多彩な分科会が用意されていた。以下は、速報『オー！マイわだつみくん』に掲載された参加者の感想である。

「石井さんの経験に裏打ちされた、生の問題提起、訴えに心が揺さぶられました。知らなかった事実、まだまだ知らない、たくさんのこと、自分も努力して学び考えていきたい。」（「アイヌの昔語り」参加者）

「進行の方の『夕張の話ではない』。その通りだと思った。国策、政策などつなげて、住民自治の視点で考えていきたい。」（「夕張から考える地域経済」参加者）

「サハリン、クリルの現状も知ることができました。領土問題については、主権問題ではなく人々の交流促進という形が大切と納得しました。」（「サハリン・クリルの今と未来」参加者）

「英中口の若者と戦争と平和について多面的に話し合えて良かった。特に多文化共生多文化理解の必要性はどこでも共通でした。」（「北東アジア若者広場」参加者）

寄せられた感想からも、内容の濃い「地域に学ぶ集い」となったことが垣間見られる。

● 厳しい情勢の中、多くの実践が報告される

分科会は北海高校にて行われた。大学生の参加も多くあり、素朴な質問から、内容の濃い討議に至るまで、優れた実践に対して熱い議論が交わされた。分科会の感想からその一端を紹介する。

・第 16 分科会 中学校地理参加者

授業者に関する話題や、学習課題への導入の仕方など、地理を主軸に他教科、他分野にも通ずる様々なことを学ばせていただきました。昨今騒がれている「新学習指導要領」の一方で、忘れられがちである実際の「教室」の場での、上記のような心構えを学べて、若い世代の一人として大いに参考になりました。（北海道・学生・20 代）



北海高校中庭には喫茶室が開かれました！

・第10分科会 幼年・小学校低学年参加者

普段の大学の講義ではなかなか聴けない、現場の生の声を聴くことができ、とても勉強になります。午後からもレポートを聴いて、自分の考えを深めていきたいと思います。(北海道・学生・20歳)

・第5分科会 憲法と現代の社会参加者

午前の報告、二つとも素晴らしい実践でした。たいへん勉強になりました。児童が大騒ぎで楽しく憲法学習をやっている様子が目に浮かぶようでした。子どもの豊かな発想を引き出す力に感心しました。もうひとつの「許される戦争はあるのか」討論しあった実践に対しては議論も活発にされ、非常に考えさせられました。(愛知県・40代)

・第7分科会 現代の課題と教育参加者

歴史教育や社会科教育とは直接縁のない立場ですが、アイヌをとりまく環境について興味があり、お話をうかがいました。地名ひとつとっても、北海道はアイヌ文化やアイヌの歴史と深く関わりがありますが、文化の多様性や価値観の多様性を知る上で、アイヌ文化が学校教育の場でさらに活かされることを期待したいと思いました。(北海道・市民・40代)

●愛知大会へ向けて

今年度の全体討議は、前半で山田委員長の特別講演を行っていただき、後半は講演内容を受けての討議が行われた。

山田委員長からは、歴史教育者として出来ることとして、次のような提言がなされた。「田母神論文」、アフガン派兵・恒久派兵法などへの批判

イラク・インド洋・ソマリアでの自衛隊活動の実態を公開させる必要性

戦争の実態(歴史)を多くの市民・若者が知ることの必要性

アジアにおける軍拡の連鎖を断ち切る努力

これらの提言を受けて様々な発言がなされた。東アジアの視点で先住民族のアイヌの歴史をどのように教えるか。また、日韓歴史教育シンポジウムの成果と課題について実践報告の中でどのような討議がなされたのか。さらに、学生の立場として歴史をどのように学んでいるか、また、若者に戦争についての学習を行う上での問題点や可能性など、若者が学ぶ戦争や平和についての発言がなされた。次年度以降更に充実した全体討議が実施されることを期待したい。閉会集会では恒例の「引継ぎ」が行われ大会は次回の愛知大会へ引き継がれた。(文責：大会委員会)



現地見学(ユジノサハリンスクの保育園で「おおきなかぶ」を演じる子どもたち)